

1) 地域脱炭素創生室の創設

- 地域の脱炭素の実現に向けて、自治体等へのきめ細やかな伴走支援を行う。
- 市町村・民間企業からの派遣も受け、従来の体制より6名の増員。
- 加えて、交付金担当として総務課に2名の増員。

※別紙 1 参照

2) 脱炭素先行地域

- 第1弾公募期間：令和4年1月25日～2月21日
- 選定自治体の決定・公表：4月以降

3) エネルギー対策特別会計 補助・委託等事業 パンフレット

- 令和4年2月に令和4年度の「エネルギー対策特別会計における補助・委託等事業」に関するパンフレットを公表。
- 道内自治体・経済団体等へ合計1,000部程度配布



4) ゼロカーボンパーク

- 阿寒摩周国立公園（阿寒湖温泉）・釧路市 [2022.3.18登録]
- 支笏洞爺国立公園（支笏湖）・千歳市 [2022.3.29登録]

※別紙 2 参照

(別紙1) 地域脱炭素創生室が行う伴走支援

脱炭素先行地域づくり



- 今後先行地域の申請を目指す自治体の支援
- ゼロカーボン北海道タスクフォースの運営

改正温対法



- 「再エネ促進区域」の設定への助言

補助金・制度



- 環境省の脱炭素支援メニューの紹介
- 「ゼロ北テラス」の運用

脱炭素に関する地域協議会



- 自治体が設置する協議会への参画

ESG地域金融・脱炭素経営



- ESG地域金融の普及啓発のための企画
- 企業の脱炭素経営促進のための企画

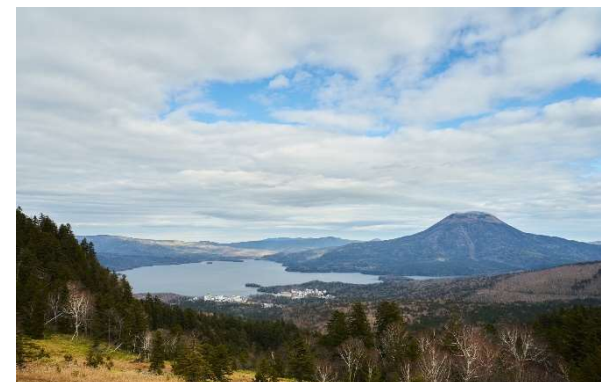


阿寒摩周国立公園・阿寒湖温泉（釧路市） のゼロカーボンパーク登録（全国第4号）

※令和4年3月18日時点

1. 阿寒湖温泉と阿寒摩周国立公園

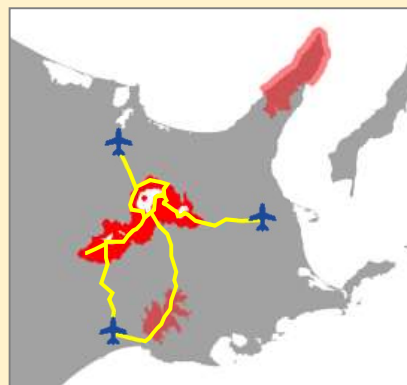
- ✓ 阿寒湖温泉（釧路市）は、阿寒摩周国立公園を代表する阿寒湖の湖畔に発展した、ひがし北海道屈指の温泉観光地
- ✓ 湖の周囲には原生的な森林が残されており、湖には国の特別天然記念物であり世界で唯一の大型球状マリモの群生地がある。
- ✓ 釧路市は、令和3年2月にゼロカーボンシティを表明



2. ゼロカーボンパークに向けた釧路市及び地域の取組

① トレイルネットワーク×ゼロカーボン観光の推進

- ・ 阿寒摩周国立公園では国立公園満喫プロジェクトの取組として、ひがし北海道3空港を結ぶ「阿寒摩周国立公園トレイルネットワーク」の構築を推進
- ・ 阿寒湖温泉で導入したE-bikeの活用も含め、ゼロカーボンの移動手段によるトレイル活用を推進





阿寒摩周国立公園・阿寒湖温泉（釧路市） のゼロカーボンパーク登録（全国第4号）

※令和4年3月18日時点

2. ゼロカーボンパークに向けた釧路市及び地域の取組

② 温泉熱利用設備の導入による省エネ推進

- ・ 阿寒湖温泉の宿泊施設及び釧路市の公共施設では、従来から温泉熱を利用した熱交換システムを導入しており、引き続き、暖房設備の省エネを図っていく
- ・ 令和4年度から整備する「（仮称）阿寒アイヌクラフトセンター」においても、温泉熱利用の導入を予定



③ 地元のおいしい水PRでペットボトルごみ削減

- ・ 地域内の観光施設、公共施設等に阿寒山系のおいしい水道水である「くしろ阿寒百年水」の給水スポットを設け、マイボトルの利用によるペットボトルごみの削減を推進



3. 環境省における対応

- ✓ 現地の地方環境事務所の伴走支援や、トレイルネットワークの推進、直轄施設への給水スポット設置等により市及び地域の脱炭素化の取組を後押し

千歳市・支笏湖の取り組み（全国第6号）

※令和4年3月29日時点

1. 千歳市と支笏洞爺国立公園

- ✓ 支笏湖は北海道千歳市に位置し、日本北限の不凍湖としてその湖と森と火山の織り成す景観美が魅力。
- ✓ 空港から近く、支笏洞爺国立公園内でも特に利用者が多い。
- ✓ 令和4年2月7日に千歳市がゼロカーボンシティを表明。



2. ゼロカーボンパークに向けた地域の取組

①再生可能エネルギーの活用

- ・水力発電によって大部分の電力が賄われている支笏湖地域。
- ・ゼロカーボンアクティビティ※商品の造成、ふるさと納税返礼品としての活用など、ブランド化に取り組んでいる。

※水力発電の電力を活用した電動自転車とカヌーを使って支笏湖から空港まで移動する。

②二次交通の脱炭素化

- ・ビジターセンターでの電動自転車の貸出しや、EV充電設備の設置等による地域全体での脱炭素化を推進。



千歳市・支笏湖の取り組み（全国第6号）

※令和4年3月29日時点

2. ゼロカーボンパークに向けた地域の取組

③ ゼロカーボン又は環境配慮型アクティビティの推進

- ・ ゴミ拾いダイビング等の環境配慮型アクティビティを実施。
- ・ 電動船による湖面巡視等、支笏湖の管理やアクティビティにおいてもゼロカーボンを目指す。



④ サステイナブルな観光地づくり

- ・ 除伐・伐採木、落葉等のバイオマスや物品製作での再利用。
- ・ 支笏湖を代表する「氷濤まつり」での※環境配慮の取り組み。
- ・ ゼロカーボンパークの取組の道標となる「支笏湖スタイル」を設定、その認定基準や認定マークを創出。



※人工物のまつり資材を除伐・伐採木等に転換、落ち葉を入場券に変える等し、ごみや紙使用を減らす。

3. 環境省における対応

- ✓ 現地の地方環境事務所の伴走支援や、直轄施設における太陽光パネル、E V充電設備、地中熱ヒートポンプの導入等により、地域の脱炭素化の取り組みを後押し。